

# 図書館に関する新聞記事の クリッピングとその分析

村 井 恵

## 1. クリッピングとは

新聞とは、「社会の出来事の報道・批判をすばやく、かつ広く伝えるための定期刊行物」（広辞苑）と言われているが、新聞は、その日のうちに眼を通して読み捨てるとするのが本来で、時間の経った古新聞は、刊行された時点に比べ価値が下がり廃業同然のものとなり、必要とされなくなる。しかし、情報の源、知識の宝庫とも言われる新聞をただ時代の流れと共に読み捨てられてしまうのは、とても忍びないものである。現代社会においては、テレビやラジオ等による情報源の多様化により、活字離れと言われる時代であるから、新聞・雑誌等を購入し読まなくても、最新の情報は自然に耳にする。しかし、人間の記憶というものは、それ程あてになるものではなく聴くだけでは、どうしても忘れてしまうことが多い。新聞は、有能な記者やこの時代を彩る一流人が、金と時間とエネルギーをかけて調べあげた情報集であり、あらゆる知識集でもあり、更にその情報量は、他の情報源より比べものにならない。新聞というものは、読めば読むほど興味や関心が湧き出てくる。誰にとっても、「これは見逃してはならぬ」「これを読み過しては必ず損をする」という記事のいくつかに出くわしたことがあると思うが、そこから「参考にしたい」「保存したい」という考え方が出てくる。新聞の中から必要な記事を切り抜いて「資料」として保存活用していく方法に『切り抜き＝クリッピング』がある。この作業は、たいいていの人が長続きしたかしないかは別として、大なり小なり経験しているであろう。切り抜いて保存しておけば、いづれ役に立ちそうな気がするのである。

検索しやすく編集された縮刷版や、保存の点からは万全のものとされるマイ

クロ・フィルム版は、それなりの利用度はあるが、長い年月の後には、とうてい個人の記憶や伝聞から検索するには、大変な労力と時間を費いやさなければならぬ。切抜資料は、

1. 同一内容の記事を長期間にわたって集約してあり、検索に便利なこと
2. 大きな紙面でなく、記事単位に小型化してあり、読みやすい形体であること
3. 生の記事によって事実追求ができること

という重要な効用があり、無視できないものである。

国立国会図書館には、閲覧部新聞雑誌課新聞切抜係という専門係が設けられ、その資料は一般に公開されて活用されているが、私は、まず、個人の知的生産に役立てることを目的にクリッピングを始めてみた。

## 2. クリッピングの手順

### 1) 記事の選択

どんな記事を拾うのか、何のために切り抜くのかは、人によって違うばかりでなく、その量も違う。また、どんな種類の新聞を読むかによって、大変個人差のある作業である。職業柄、図書館に関する情報を網羅的に集めることにする。

### 2) チェック

チェックの方法として

- ① 記事の色鉛算で囲む
- ② 記事の始まりと終わりとをカギカッコで囲む
- ③ 矢印をつける

などがあるが、確実に切り抜きたい記事の切り漏れを防ぐため、その対象となる記事を囲み込んだ方が一番よいと考え、①を採用する。又、特に注意したいことは、切り抜きたい記事の裏に、もう一つ別の切り抜きたい記事があるかどうかには気をくばることである。同一新聞が2部あれば問題ないが、欲しい記事が両面背中合わせに出ているときは

① スペースの大きい方に合わせてチェックし、切り抜いたあとどちらかの記事をコピーする。

② 身近な人で同じ新聞をとっている人があれば、切り抜かせてもらうなど方法はあるが、①を採用した方が、気がねなく、手間も少なくてよい。

### 3) 切り抜き

切り抜く道具を何にするか

① (紙切り専用)ハサミを入れる

② カッターで切りとる

③ 定規をあててむしりとる

などがあるが、「むだなく」「手っとり早く」そして一番使い慣れているという点から、①を採用する。

### 4) 整理・保存法

#### (4-1) 貼る

何に貼るか

① 台紙に貼る

② スクラップブックに貼る

の2種類の方法がある。②の欠点として、必要な記事を取り出すことができず、分類が適当でなくなるとき移し替えに困るということである。①を採用する。

何で貼るか

① セロテープ

② のり

が、一般的によく使われる。②を使用すると、多すぎたり、少なすぎたり、はみ出したり、染み出したりして、対向ページにくっつく恐れがある。①は慣れないと扱いにくいだが、現在「両面テープ」という手軽で便利なものが市販されているので、これを使うことにする。

B6判の台紙に切抜資料を1記事1枚を原則として、両面テープで、台紙より小さなものは上下に、大きなものは右上を基点として貼り、記事が台紙よりはみ出した場合は、中で折りたたむ。台紙の余白部分(最右上部)に日付けと

新聞名を書き込む。様々な形をした小記事を同じ大きさにまとめておくと、美的感覚もよく、整理もし易く、保管も便利である。

#### （４－２） はさむ（分類）

図書館に関する記事といっても、内容は多彩で記事の量が増えることによって、どこにどんな内容のものがあるかわからなくなり見たい記事も探しにくくなる。そこで、これらの記事を項目別、グループ別に分類して、保存することになる。何にはさむか。

① クリアブック（数枚の透明のビニールの袋が 一冊綴りになったもの）

② フォルダ

などがある。②の場合、ファイリング・キャビネットというそれ専門の収納装置が必要となり、この切抜資料を事務用・公共用に役立てるならよいが、あくまでも切り抜きに関しては全くの初心者であるので、私的に活用できる範囲で便利な①を採用する。クリアブックに切抜資料をそのままはさみこむ方法もあり、台紙に貼る手間が省けて楽であるが、袋の中で紙片が動きやすく散乱してしまったり、出し入れすると脱落や紛失の恐れがある。

#### （４－３） 見出し

項目別・グループ別に分類し、ファイルされることによって、整理・保存・検索の機能を一挙に持つことになる。記事内容の多様性をどのように分類し、どのように検索機能を持たせるか、創意工夫のしどころであるが、現在、私の職業柄、資料の分類は司書としては欠かせない仕事のひとつであり、常に悩まされ頭の痛いところであるが、その反面慣れているのでそれほど苦でもない。そこで、検索機能を持たせるために「見出し」をつけ、NDC（日本十進分類法新訂7版）の図書館（010）の項目を採用し、配列もNDCの順とし、同一分類のものは年月日順とする。

#### 5） 追加と削除

『図書館雑誌』には、毎号「新聞切抜帳」が紹介され、各地方新聞の情報を知ることが出来る。又、切り漏らした記事も再チェックし、本学図書館に備えつけられている「朝日」「毎日」「日本経済」などの縮刷版よりコピーして、

保存に努める。

定期的集めた記事を再チェックし、

- ① 利用価値を失なったもの
- ② 重複となった記事

などは、思い切って削除する。切り抜いた記事の重要性は、ある程度期間をおいて、再び読んだ時に重要と思われるものはその後も十分必要なものであると判断されるので、保存し続けることになる。

### 3. クリッピング分析

NDCの「④図書館（0 1 0）」の項目には、大きく分けると、

- ⑤ 図書館行政および財政（0 1 1）
- ⑥ 図書館建築と設備（0 1 2）
- ⑦ 図書館管理（0 1 3）
- ⑧ 図書の整理と保管（0 1 4）
- ⑨ 図書運用法・図書館活動（0 1 5）
- ⑩ 一般図書館（0 1 6）
- ⑪ 学校図書館・大学図書館（0 1 7）
- ⑫ 専門図書館（0 1 8）
- ⑬ 図書利用法・読書法（0 1 9）

となる。

図書の分類においては、上位概念によって内容を把握し、次に下位概念へと展開させていくが、社会現象に伴なった内容の多い新聞記事においては、適切な主題を把握することが難しく、しばしば分類が移動するが病むを得ない。又、主題が2つ以上に分かれ、分類が困難となり検索効率に大きな影響を与えるものは、重み（Weight）の大きい主題によって分けることになる。たとえば

- ① 「図書館開館を早く」（朝日、1986、8、27）
  - ㊦ 一般図書館－公共図書館
  - ① 図書館管理－利用規則－開館時間

- ② 「図書館奉仕の量と質」( 中日、1984、3、2と3、16)
  - ㊦ 図書館管理－司書－職務分析
  - ① 図書の整理と保管－選書・蔵書構成
  - ㊧ 図書館活動－レファレンス・サービス
- ③ 「きょうから世界の絵本とポスター展 中京大学附属図書館」( 中部読売、1984、11、1)
  - ㊦ 図書館活動－諸活動
  - ① 大学図書館

と分析され、実務上は、利用度・検索度の高い主題に分類を決定する。この場合は、それぞれ、①－㊦、②－①、③－㊦を選ぶ。

ここで、私が収集した記事を分類して、その割合を表にしてみた。

表 1

項目	010	011	012	013	014	015	016	017	018	019
%	3	9	6	6	19	15	13	11	6	12

個人の着眼点によって、収集される主題に偏りが出るが、上記の分析によると〔0 1 4〕図書の整理と保管についての記事が多い。さらに細分化して分析してみると、

- ㊫ 図書選択法・蔵書構成 (0 1 4.1)
- ㊬ 図書注文および受入法 (0 1 4.2)
- ㊭ 図書目録法 (0 1 4.3)
- ㊮ 図書分類法および記号法 (0 1 4.4)
- ㊯ 図書の配置(配架)・図書記号法 (0 1 4.5)
- ㊰ 図書の保全・図書の損傷と保護 (0 1 4.6)
- ㊱ 特殊資料の整理と保管 (0 1 4.7 )
- ㊲ ドキュメンテーション (0 1 4.9)

表 2

項目	014	014.1	014.2	014.3	014.4	014.5	014.6	014.7	014.9
%	4	10	16	1	0	0	36	2	31

という結果になる。予想外に㊹の記事が多いのは、クリッピングを始めたことから、それに関する記事を興味深く収集したからであろう。又、㊸㊺㊻㊼の記事が少ないのは、専門図書の出版が充実していると考えられる。

最近では、「図書館のコンピュータ化」に関する記事、たとえば、

①「蓄積進む国会図書館データベース 民間への情報提供も」(日経産業、1985、3、6)

②「4 大学で相次ぎ導入 図書館ネット急進展

〔UTLASに上智など〕丸善、日本語処理にも着手」(日刊工業、1985、4、15)

③「21世紀には—電子図書館 読書も画像通信で」(中日、1985、5、29)

などが目立ち、主題が全般にわたるものが多く分類に困難なため、また利用度の面からも検索しやすくするために、特別に件名で『電算化』という項目を追加した。

#### 4. クリッピング随想

○「図書館の本選び」(中日、1983、11、11)

選書は、どこの図書館でも抱えている問題のひとつである。大学図書館においても、研究者のための専門図書だけでなく、教養・趣味・娯楽のための資料の充実化を図らなければならない。

○「視聴覚の資料もどうぞ 貸し出す図書館増えてます」(朝日、1986、3、28)

資料とか情報というと、図書資料つまり活字になったものを思い浮かべるが、最近では、視聴覚資料も含まれ、図書館でも、知識や情報、思想な

どを伝達するメディアならすべて図書館資料として扱われている。「図書館＝本」という既存概念は、昔のことである。

○「妻よ子供図書館だ 良い本で優しい心」(中日、1986、11、1)

絵本・童話など一万五千冊が用意され、創設された子供図書館の記事である。絵本や童話は、人間的優しさや思考力の育成に欠かせない幼児・児童の研究資料のひとつである。

○「本が壊れてゆく」(朝日、1985、10、21)

最近、「本の酸性紙問題」の記事が多い。酸性紙を使った本はそのまま放置しておくると劣化しボロボロになるという。貴重本として保存・保管している国会図書館や大学図書館では事態を深刻に受け止めている。本学図書館にも、研究のために古書を集めているが、積極的に保存問題を考えなければいけないと思う。

○「図書館の利用と読者のプライバシー」(中日、1986、11、5)

「図書館の自由に関する宣言」で掲げられている“利用者の秘密を守る”という宣言を、刑事訴訟法による捜査協力をして破ったという記事である。プライバシー保護と捜査協力のどちらを優先するか難しい問題であり、本学図書館員の間でも話題となった。

○「日本語の電算図書目録システム 丸善、開発に着手」(日本経済、1986、11、28)

カナダの図書館情報サービス機関“UTLAS”を導入して、2年余りとなり洋書整理の目録作成においては既に電算化されているが、その目録作成システムの日本語版とも言われる“JAPAN CATSS”が、62年6月から本稼動となる。本学図書館でも、和書の電算化について検討しているが、この開発は、大きな影響を与えることになると思う。

## 5. むすび

図書館学や図書館事情について、興味や関心を持つことは、図書館員として当然のことであり、資料収集にも努めなければならないことである。しかし、



無造作に資料を収集するだけでなく、その整理、保存、検索の機能を十分に持たせ、活用していくことが問題となる。図書館情報記事は、図書館学と各図書館について最新の情報を含むものであるが、時間が経過しても貴重な研究資料として価値を失うことはないであろう。

クリッピングを作成したが、これは手造りの教科書であり、今後也大いに活用し、図書館情報を素早く入手し自己研修に役立てて行きたい。

<参考文献>

1. 鋏と糊 三國一郎著
2. 「切った貼った」の五十年 大石昌治著
3. 身辺整理の心得 井上如著
4. シリーズ・図書館の仕事⑱ファイリング・システム 服部金太郎編
5. NIPDOKシリーズ⑤文献資料の整理方法（改訂新版）日本ドクメンテーション協力出版委員会編
6. 図書館活用学一本のある暮らし 森崎震二、戸田あきら編著